

読みを深める文学的文章の指導の工夫

～場面ごとに視点を決めて批評し、作品の解説をまとめる活動を通して～

国語班 飯島 英子(中学校教諭)

主題設定の理由 新学習指導要領や「はばたく群馬の指導プラン」から、中学校3年生国語科では、自分なりに作品の価値を考えながら深く読む力が求められている。しかし生徒の実態は、作品全体のあらすじはつかめるものの細かい表現にまで目が向かない。そこで、場面ごとに視点を決めて批評することで読みを深めようと考えた。

文学的文章の読みの課題

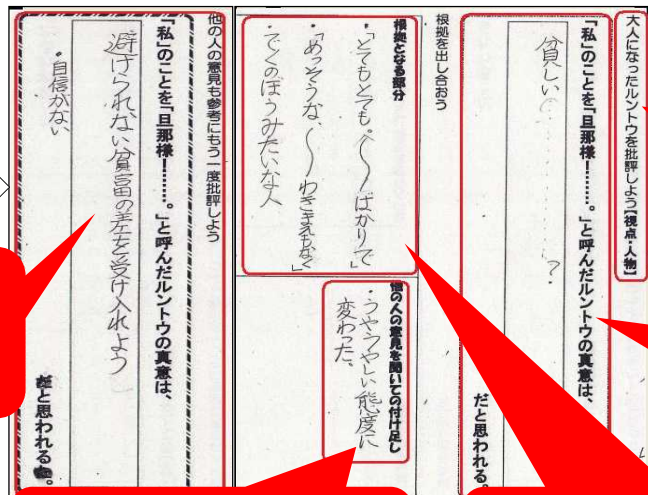
あらすじは読み取れるが、文章の細かい表現にまで目が向かず、読みが深まらない。



批評用ワークシートの例

2回目の批評
友達の批評を参考に、もう一度批評する。

手だて1 場面ごとに視点を決めて批評する



★ 読みの視点
何について読むかを明確にする。

1回目の批評
設定された型に合わせて、短時間で端的に批評する。

根拠の付け足し
友達の批評に触れて、自分では気付かなかった表現をメモする。

批評の根拠
文中から根拠を探すために、同じ場面を細かい表現まで注意して、何回も読む。

手だて2 批評を基に作品の解説をまとめる

生徒がまとめた解説の例

いろいろな視点から批評を重ね、交流してきたから、解説に自分の考えをしっかりとまとめられたよ。

作中の社会の状況を現代に置き換えて考え、まとめた例
(中略)少年時代から「私」とルトウは身分の差があったが、大人になった今、余計に感じている。いわゆる格差社会だ。現代の日本もそうだ。裕福な暮らしばかりではない。例を出すならホームレスがそうだ。自分は、この格差社会から近い将来改善したい。そして、平等な日本になるよう努力したい。

作品の構成についてまとめた例
(中略)この作品はなぜ面白い表現が少なく、暗い表現が多いのか。それは、最後の「希望」について書かれている部分を引き立たせるためだと思う。そうすることにより、最後は村を離れると同時に「私」の気持ち「希望」のことを考えて良い方向に変わるの引き立つのだ。

交流で出された登場人物の批評

文学的文章の深い読み
書かれていることを根拠に、自分なりの考えをもつことができる。



成果と課題

○場面ごとに視点を決めて批評したことで、生徒は自分の考えの根拠を探すために必然的に細かな表現に目を向けて本文を読み返し、また交流によって、自分では気付かなかった点をメモすることで、根拠を明確に示して批評できた。解説をまとめる際には、それまでの批評や作品を見直し、自分の考えや読みを深めることができた。

●批評の視点を厳選したり、いくつかの視点を組み合わせたりすることで、より短時間でより効果的に、読みを深めていく工夫が必要である。